様式第２号(第７条関係)

|  |  |
| --- | --- |
| 受給者番号 | 　　　 |

小野町特定不妊治療費助成事業受診等証明書

　下記については、特定不妊治療以外の治療法による妊娠の可能性が低いため、特定不妊治療を実施し、これに係る医療費を下記の通り徴収したことを証明します。

平成　　　年　　月　　日

小　野　町　長

　　　　　　指定医療機関の名称

　　　　　　　指定医療機関の所在地

　　主治医氏名

指定医療機関記入欄**(主治医が記入してください)**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| （ふりがな）受診者氏名 | 夫 | 　(　　　　　　　　　　　　　　　) | 妻 | 　(　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 受診者生年月日 | 昭和平成　　　年　 　月　　　日（　　歳） | 昭和平成　　　年 　 　月　　　日（　　歳） |
| 今回の治療方法 | Ａ　　Ｂ　　Ｃ　　Ｄ　　Ｅ　　Ｆ該当する記号(注参照)に○をつけてください | Ａ又はＢの場合１　体外受精　　　２　顕微授精(該当する番号に○をつけてください) |
| 今回の治療期間 | 年　　　月　　　日　　～　　　　　年　　月　　日 |
| 男性不妊治療を行った場合は、行った手術療法を記載ください | （精子回収の有無）１．有　　２．無 |
| 当該患者が過去に行った特定不妊治療について記入してください。　１　　体外受精　　　　　　　　実施(　　　　)回　・　未実施　２　　顕微受精　　　　　　　　実施(　　　　)回　・　未実施 |
| 領収金額 | (今回の治療にかかった金額合計※保険外診療に限る)特定不妊治療費（男性不妊治療費除く）　　　　　　　　　　　円男性不妊治療費　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　円 |

|  |
| --- |
| (注)　助成対象となる治療は次のいずれかに相当するものです。Ａ　新鮮胚移植を実施Ｂ　排卵から凍結胚移植に至る一連の治療を実施(採卵、受精後、胚を凍結し、母体の状態を整えるために１～　　３周期の間隔を開けた後に胚移植を行うとの治療方針に基づく一連の治療を行った場合)Ｃ　以前に凍結した胚による胚移植を実施Ｄ　体調不良等により移植のめどがたたず治療終了Ｅ　受精できず、又は、胚の分割停止、変性、多精子受精などの異常受精等による中止Ｆ　採卵した卵が得られない、又は状態のよい卵が得られないため中止(注)採卵に至らないケース(女性への侵襲的治療のないもの)は助成対象となりません。ただし、採卵準備前に男性不妊治療を行ったが、精子を得られない、状態のよい精子が得られないため中止した場合は、助成の対象となります。　　 |